

# シンハラ語母語学習者による日本語授受補助動詞文の使用状況

宮 岸 哲 也

## Usages of Japanese Giving and Receiving Expressions by Native Speakers of Sinhala

Tetsuya MIYAGISHI

### 1. はじめに

小論では、シンハラ語母語話者を対象にした日本語の授受補助動詞の合理的かつ効果的な指導を考える上での基礎研究として、シンハラ語母語話者における日本語授受補助動詞の使用状況（正用、誤用、不使用、代用<sup>1)</sup>）を明らかにする。

なお、その際には、シンハラ語と日本語の授受補助動詞文の共通点と相違点も踏まえつつ、それらをシンハラ語母語話者に対する日本語授受表現への指導に、どのように役立てていくか考えていく。

### 2. 先行研究

#### 2.1 シンハラ語母語話者の日本語授受補助動詞文の習得過程

シンハラ語母語話者の日本語授受補助動詞文の習得過程については、Priyadarshani (2008, 2010abcd) と Priyadarshani・浮田 (2008) の一連の研究がある。

まず、習得順序について、Priyadarshani (2008) では、テアゲル・テモラウ>テクレルの順序で習得されると述べているが、Priyadarshani (2010d) では、テモラウはテアゲル・テクレルよりも容易に習得されるとし、若干異なる見解を示している。テモラウの習得がシンハラ語母語話者にとって容易なのは、これに相当するシンハラ語表現 *-wa gannəwa* があるためである (Priyadarshani 2008, 2010cd)。更に母語の影響を受けるものとして、テアゲルを使用すべきでない所で、テアゲルを使用してしまう傾向があるが、それは、テアゲルに相当するシンハラ語表現 *-la denəwa* が話し相手の上下関係に関わらず、使用できるためだとしている (Priyadarshani 2010c)。

また、Priyadarshani (2010a) では、筆記試験では誤用が一番多いのにも関わらず、実際の使用場面ではテクレルをテモラウよりも好んで使用していることを指摘し、その要因として、テモラウに相当するシンハラ語表現の *-wa gannəwa* が場合によって強制的意味になるため、日本語のテ

1) 小論では、代用という語の定義について、発話者に意図の有無に関わらず、授受補助動詞形式の使用が可能なところで、別形式を使用していることを表す。

モラウの代わりにテクレルの使用を好むとしている。更に, Priyadarshani (2010b) では, レベルが向上しても, テクレルの正答率がテアゲルとテモラウよりも低いことから, テクレルが一番習得の難しい項目としている。

以上の先行研究では, シンハラ語母語話者による日本語授受補助動詞形式テアゲル・テクレル・テモラウの習得順序とその要因としての母語の存在が指摘されているが, それぞれのレベル別の正答率によってのみしか状況が説明されておらず, 正用, 誤用, 不使用, 代用を含めたより詳しい授受補助動詞形式の使用状況が示されていない。

## 2.2 日本語とシンハラ語の授受補助動詞文の対照

日本語とシンハラ語の対照研究としては, Priyadarshani (2008) が日本語が3体系であるのに対し, シンハラ語は2体系(与え手主語と受け手主語)であると指摘している。

テアゲルとテクレルは, どちらもシンハラ語で *-la denəwa* と訳される。ただ, テアゲルのような動作主に話者の視点が向く表現は, シンハラ語では一般的であるが, テクレルのように, 動作主に話者の視点が向かない表現は一般的ではない。なお, 宮岸 (2010) では, 表1のようにテアゲル・テクレル・*-la danəwa* を対比しており, それぞれの授与補助動詞形式がどのような前項動詞を取るかについても, その違いを指摘している。*-la denəwa* がとる前項動詞については, 宮岸 (2011b) で更に修正がなされ, 行為によりもたらされる物・事態が具体的・直接的であれば許容されるとし, 必ずしも具体物の授与が伴わない場合でも, 1) のように許容される場合があることを指摘している。

表1 テアゲル・テクレルと *la denəwa* の対比 (宮岸 2010: 21)

	話者視点 (主・客観性)	前項動詞	恩恵性が生じる要因
てあげる	与え手視点 (主観的)	意志動詞全般	補助動詞に内在する好ましさ
てくれる	受け手視点 (主観的)	動詞全般	補助動詞に内在する好ましさ
<i>-la denəwa</i>	無 (客観的)	具体的事物授与に繋がる動作	前項動詞と補助動詞の意味の組み合わせ

- 1) *eyaa ma-Tə mage kaamrəya sarəsə-la dunna.* (宮岸 2011b: 239)  
 彼は 私のために 私の 部屋を 飾って くれた。

逆に前項動詞の行為によりもたらされる物・事態が非具体的・間接的であれば許容されないとし, 2)~4) のような例を挙げている (宮岸 2011b)。シンハラ語では, これらの授与補助動詞文は全て不適格であるが, いずれも受益者にもたらされると考えられるものが, 満足感や喜びなどの精神的状態であり, 具体性に欠いている。

- 2) \**magee putaa ma-Tə mahansiyen igena gena dunna.* (宮岸 2011b: 239)  
 私の 息子は 私のために 一生懸命 勉強して くれた。
- 3) \**Chitra Ranjit-Tə prāsansaa kərə-la dunna.* (Chandralal 2010: 174)  
 チットラは ランジットを ほめて やった。

- 4) \*eyaa ma-Tə maat ekka sellam kərə-la dunna. (宮岸 2011b: 240)  
彼は 私のために 私と一緒に 遊んで くれた。

また、5) のように具体物の授与が伴う場合で許容されない場合もあり、Chandralal (2010: 174) では、授与補助動詞形式の前項動詞 yawəṇəwa (送る) が二重目的語を取るためだと説明しているが、宮岸 (2011b) では、6) のように geenəwa (持ってくる) という二重目的語をとる動詞が適格な授与補助動詞形式を作れることを示し、前項動詞と授与補助動詞 denəwa (与える) の間に意味的な重複があるかどうか許容度の違いに影響をしているのではないかと指摘している。つまり、送ることは与えることを含意しているが、持ってくることは与えることを含意していないのである。

- 5) \*Chitra Ranjit-Tə pot-ak yawə-la dunna. (Chandralal 2010: 174)  
チットラは ランジットに 本を 送って やった。  
6) eyaa ma-Tə tee genat dunna. (宮岸 2011b: 240)  
彼は 私に お茶を 持ってきて くれた。

更に、同じ動詞でも文意により、適格性に差が出る場合もある (宮岸 2011b: 241-2)。7) は適格な文であるが、8) は不適格である。その理由は、前項動詞の行為により受益者にもたらされる物が 7) では会議で具体的であるのに対し、8) では受益者である私にもたらされる具体的なものが想定できないためである。

- 7) Chitra Ranjit-Tə rəswiimə matak kərə-la dunna. (Chandralal 2010: 174)  
チットラは ランジットの為に 会議を 思い出させて やった。  
8) \*eyaa maa-wa matak kərə-la dunna. (宮岸 2011: 242)  
彼は 私を 思い出して くれた。

テモラウについては、Priyadarshani (2008) が<sup>9)</sup>のように、シンハラ語では -wa gannəwa になるとしている。宮岸 (2010: 18) では表 2 のように纏めている。

- 9) mama guruwəṛəya-lawa charithasahathikayak liyəwa-gatta. (Priyadarshani 2008: 17)  
私は 山田さんに 推薦状を 書いていただきました。

表 2 テモラウ文と wa gannawa 文の対比 (宮岸2010:18を一部修正)

	受け手	与え手	形式
テモラウ文	主格	与格	動詞 (テ形) + モラウ
wa gannawa 文	主格	lawā (被使役者標示後置詞)	使役動詞 (-wa) + gannəwa

しかし、Priyadarshani (2008: 18) では、-wa gannəwa の表現にはテモラウのような恩恵の意味が含まれる場合とそうでない場合があるとしている。また、翻訳本におけるテモラウに対応する

シンハラ語表現を分析した宮岸(2009)では、動詞により必ずしも、テモラウが *-wa gannəwa* と対応するわけではなく、サセテモラウが *-wa gannəwa* と対応したり、受け身の意味を持つ受動型テモラウ(Masuoka 1981)が動詞的な意味を持つ名詞 + *læbenəwa* (受け取る) と対応したりするなど、対応関係が一様ではないことを示している。更に、宮岸(2011a: 56)では、シンハラ語の *-wa gannəwa* が基本的に使役文であることから、使役者が被使役者に何かを依頼・命令することが可能で常識的であるほど、その許容度が上がり、これに反する、10)~13) は不適格になるとしている。10) では、胎児である私が母親に依頼するのは不可能であり、11) では、死ぬことへの命令が常識的ではなく、12) と13) では、自分に対し慰めや賞賛を依頼するのものの不可解であるとシンハラ語母語話者は考えているようである。

- 10) \**mama ammaa lawa maa-wa prasuuta kərə-wa gatta.* (宮岸 2011a: 56)  
 私は お母さんに 私を 産んで もらった。
- 11) \**mama eyaa lawa miya ya-wa gatta.* (宮岸 2011a: 56)  
 私は 彼に 死んで もらった。
- 12) \**mama eyaa lawa sanəsə-wa gatta.* (宮岸 2011a: 54)  
 私は 彼に なぐさめて もらった。
- 13) \**mama eyaa lawa agee kərə-wa gatta.* (宮岸 2011a: 54)  
 私は 彼に ほめて もらった。

以上見てきたように、シンハラ語は日本語ほど、自由に授受補助動詞形式を作れるわけではなく、動詞や文の意味により様々な制限がある。もし、仮にシンハラ語母語話者が日本語の授受補助動詞文を産出しようとしたときに、母語の干渉が生じるのであれば、テアゲル・テクレル・テモラウの使い分けという問題だけではなく、シンハラ語では言えないような日本語の授受補助動詞形式が産出できるかどうかという問題についても、見ていかなければならない。

### 3. 本研究の目的

そこで、本研究では、Priyadarshani (2008) のシンハラ語母語話者を対象にした日本語授受補助動詞文の習得研究の結果を補完する上でも、その要因としてのシンハラ語の母語干渉を強調する上でも、以下の①と②の点について明らかにすることを目的とする。

- ①シンハラ語母語話者の日本語能力別の授受補助動詞形式(テアゲル・テクレル・テモラウ)の、それぞれについて使用状況(正用, 誤用, 不使用, 代用)を明らかにする。
- ②シンハラ語において授受補助動詞形式を取りやすい動詞と取りにくい動詞があることを踏まえ(宮岸 2011a, b), このような要因も日本語授受補助動詞文の習得に影響を及ぼしているかどうかを明らかにする。

### 4. 調査の方法

表3のシンハラ語母語話者52名(26組のペア)を対象に、①「いい友達とは」、②「いい先生

とは、③「自分が風邪をひいたときに、自分の家族や友人や先生に頼むこと」、④「風邪をひいた家族や友人のためにすること」の4つの話題について、日本語で自由に会話をさせ、録音・文字化した。なお、①と②では、他者から受ける恩恵的行為について「テクレル」で表現すること、③では依頼する内容について「テモラウ」で表現すること、④では、他者の利益になるような行為について「テアゲル」で表現することを期待して、テーマを設定した。

この文字化したデータから、授受補助動詞形式（～テアゲル系、～テクレル系、～テモラウ系）を含む文と、授受補助動詞形式を持たないが授受補助動詞形式を用いることができる、或いは望ましいと筆者が判断した文を抽出した。そして、それぞれを授受補助動詞形式別と、シンハラ語対訳において授受補助動詞形式を取りやすい動詞と取りにくい動詞の区別により分析した。そして、それぞれについて、日本語能力試験合格者（1～3級）毎に使用回数（正用、代用、不使用、誤用）をカウントした。なお、正用、代用、不使用、誤用の例は、14)～29)の通りである。

表3 調査対象

日本語能力試験	合計
3級	32名
2級	15名（教師1名を含む）
1級	5名（教師3名を含む）

#### 正用例

- 14) 難しいところがあれば、これを説明してあげます。(3級)  
 15) 何か連絡があったら、友達から教えていただきたいと思っています。(2級)  
 16) 自分のことをよく理解してくれるような友達(1級)

#### 代用例

- 17) いい先生はどんな人ですか。先生は[→先生に]自分について何をして欲しいですか。(2級)  
 【テモラウの代用】  
 18) 薬をぬったり、仕事したり、食べ物を作ったりことをさせますね。(3級)  
 【テモラウの代用】  
 19) 親切に手伝うことができる人は、いい先生だと思います。(2級) 【テクレルの代用】  
 20) 日本語を教えている先生がとてもいい人ですから、私が日本語が大好きです。(3級)  
 【テクレルの代用】  
 21) あなたは彼らから手伝いをもらいますか。(3級) 【テモラウの代用】  
 22) 私も私の友達が風邪がひいたら、いつもそばにいて世話をしたいです。  
 【テアゲルの代用】

#### 不使用例

- 23) 私に(先生が)授業で教えたことを友達から教えました。(3級) 【テモラウの不使用】  
 24) 家族の誰かとか、友達誰かに風邪をひいたとき、何をしますか。(2級)  
 【テアゲルの不使用】  
 25) いい友達というのは、いつも私と一緒にいる人です。(1級) 【テクレルの不使用】

## 誤用例

- 26) 私のために手伝ってあげます。(3級) 【テクレルの誤用】
- 27) 私の家族の人や、友達が病気になったら、私はいつも、私ができることがあったら、その人に手伝ってくれます。(2級) 【テアゲルの誤用】
- 28) あのー、もしあなたに風邪をひいたとき、家族の人、また、友達、また、先生方から、何をしてくれたいんですか。(2級) 【テモラウの誤用】
- 29) とても親切に私のことについて聞いて、私に手伝ってもらう友達がとてもいいだと思う。(3級) 【テクレルの誤用】

## 5. 調査の結果と考察

## 5.1 授受補助動詞形式の全体的な使用状況

表4に示す通り、授与補助動詞形式は、学習レベルが上がるにつれ、全体的に正用の割合が高くなり、不使用の割合が下がる。誤用の割合は3級よりも2級のほうが若干高いが、これは3級において、授与補助動詞形式の使用が消極的であるのに対し、2級においては、間違えても授与補助動詞を積極的に用いようとするためだと考えられる。代用の割合が1級レベルにおいて格段に下がっているのは、感謝や手助けなどの話題において、より適切な表現ができるようになっていたためだろう。誤用の内訳は表5の通りである。

表4 レベル別授受補助動詞形式の全体的な使用状況

	正用	代用	不使用	誤用	合計
3級	24.9% (89)	23.2% (83)	47.8% (171)	4.2% (15)	358
2級	41.3% (84)	23.2% (47)	28.6% (58)	6.9% (14)	203
1級	68.2% (60)	6.8% (6)	25.0% (22)	0% (0)	88

※ ( ) の数は出現回数

表5 誤用の内訳

	アゲル (クレル)	クレル (アゲル)	クレル (モラウ)	モラウ (クレル)
3級	10	2	0	3
2級	7	6	1	0
1級	0	0	0	0

※ ( ) は修正した場合の正用

## 5.2 日本語授受補助動詞形式別の使用状況

## 5.2.1 テアゲル

テアゲルは、表6の通り、日本語能力が上がるにつれ正用の割合が高くなり、不使用の割合が下がる。誤用の割合は3級と2級の間でさほど違いはないが、表5を見てみると、3級では過剰に一般化したテアゲルを機械的に用いている誤用が目立つのに対し、2級ではテアゲルとテクレ

表6 テアゲルの使用状況

	正用	誤用	不使用	代用	合計
3級	30.3% (27)	11.2% (10)	44.9% (40)	13.5% (12)	89
2級	39.1% (25)	10.9% (7)	39.1% (25)	10.9% (7)	64
1級	73.2% (30)	0% (0)	24.4% (10)	2.4% (1)	41

ルの使い分けに迷っている様子が窺える。1級では、誤用が認められないため、テアゲルの習得は一応完成したものと考えられる。1級レベルで不使用や代用が認められるのは、テアゲルの多用が恩着せがましくなる場合があることを知っているためかもしれない。

### 5.2.2 テクレル

テクレルは、表7の通り、レベルが上がるにつれて正用の割合が高くなる。不使用の割合が最も高いのは3級であるが、次に高いのは2級ではなく、1級である。ただ、代用の割合が3級と2級でどちらも27%程度あるのに対し、1級では7%程度となっており、不使用と代用を合わせた数の割合を見ると、レベルが上がるにつれ低くなっていることが分かる。誤用の割合が最も高いのは2級であるが、これは3級レベルで使用が避けられていたテクレルが、2級になりようやく、試行錯誤されながらも使われるようになったことを表していると考えられる。また、1級レベルでも不使用の割合が3割程度あることは、まだ、テクレル表現が完全に習得されていないことを示している。

表7 テクレルの使用状況

	正用	誤用	不使用	代用	合計
3級	21.9% (52)	0.8% (2)	49.8% (118)	27.4% (65)	237
2級	43.8% (57)	5.4% (7)	23.8% (31)	26.9% (35)	130
1級	62.5% (25)	0% (0)	30.0% (12)	7.5% (3)	40

### 5.2.3 テモラウ

テモラウは表8の通り、テアゲルやテクレルと比べると、テモラウの出現頻度は極端に少ない。シンハラ語母語話者は、テモラウの使用を避ける傾向があると言えよう。この結果は、シンハラ語母語話者学習者がテクレルをテモラウよりも好んで使用しているという Priyadarshani (2010c) の指摘とも通じるものである。今回はデータ数が少ないため、はっきりとは言えないが、2級の

表8 テモラウの使用状況

	正用	誤用	不使用	代用	合計
3級	43.5% (10)	13.0% (3)	17.4% (4)	26.1% (6)	23
2級	33.3% (2)	0% (0)	33.3% (2)	33.3% (2)	6
1級	71.4% (5)	0% (0)	0% (0)	28.6% (2)	7

場合を除き、テアゲル・テクレルより正用の割合が高いのは、テモラウの習得しやすさが要因ではないかと考えられる。

### 5.3 シンハラ語対訳での授受補助動詞形式の可否による日本語授受補助動詞の使用状況

本調査のデータから抽出した日本語授受補助動詞の前項動詞の中で、対応するシンハラ語も授受補助動詞形式を取りやすいものとして、31)の動詞を挙げることができる。一方、対応するシンハラ語が授受補助動詞形式を取りにくいものは、32)の動詞である。なお、これらの区別は、宮岸(2010, 2011ab)で行った調査をもとに分け、それを再度シンハラ人日本語教師に確認してもらったものである。

- 31) アドバイスする, 言う, 教える, 買う, 書く, 家事をする, 貸す, 消す, 仕事をする, 指導する, 示す, する, 説明する, 世話をする, 選択をする, 相談する, 助ける, チェックする, 注意する, 作る, 伝える, 手当とする, 手伝う, 直す, 発見する, 話す, 見せる, 見る, 面倒を見る, 持ってくる, やる (=する), 静かにする, 守る, 持つ
- 32) 挨拶する, 愛する, あげる, 与える, 安心させる, 行く, 祈る, 言わない, 応援する, 起こさせる, 怒らない, 落ち着かせる, 思いやる, 思う, 解決する, 駆けつける, 活動する, 我慢する, 借りる, 考える, 頑張る, 聞く, 期待する, 気をつける, くださる, 来る, 行動する, 答える, させる, 親しくする, 親しむ, しない, 調べる, 知る, 信じる, 親切にする, 信用する, 過ごす, 住む, 大切にする, 出さない, 楽しむ, 頼む, 食べる, 中心にする, ついている, 使う, 付き合いをする, 続ける, 連れて行く, 努力する, 慰める, なる, 願う, 励ます, 罰する, 勉強する, ほめる, 見る, 休ませる, 許す, 理解する, 分かる

なお、「見る」が、対応するシンハラ語で授受補助動詞形式を取りやすい例と取りにくい例の双方に表れているが、その理由は、共通する動詞でも文の意味によって、授受補助動詞形式を取れる場合と取れない場合があるためである。33)の「見る」行為は、宿題を見て、正誤のチェックや情報を具体的にもたらしめているが、34)の「見る」は、その行為によってもたらされるものが、有り難さという抽象的なものであっても具体的ではない。シンハラ語では、行為によってもたらされるものの具体性が授受補助動詞形式の許容度に影響を及ぼすので(宮岸2011b), 33)に対応するシンハラ語は授受補助動詞形式で表されるが、34)に対応するシンハラ語は授受補助動詞形式で表すことができない。

- 33) また、いつも宿題したときも、宿題を見てくれます。(3級)
- 34) いつも先生の立場から学生を見ないで、「私もそんな若いときを過ごした」という考え方を持って私たちを見るなら、(→見てくれるなら○)それはいいと思います。(1級)

表9・10は、それぞれ、対応するシンハラ語が授受補助動詞形式を取りやすいかどうかによって異なる、日本語授受補助動詞の使用状況を見たものである。表9・10を比べると、シンハラ語対訳で授受補助動詞形式になりやすいかどうか、日本語授受補助動詞の使用状況に影響を及ぼしているのが分かる。まず、3級から1級のいずれのレベルでも、シンハラ語対訳でも授受補助



表9 シンハラ語対訳でも授受補助動詞形式になりやすい動詞の使用状況

	正用	誤用	不使用	代用	合計
3級	31.6% (75)	5.9% (14)	43.5% (103)	19.0% (45)	237
2級	48.4% (59)	9.8% (12)	22.1% (27)	19.7% (24)	122
1級	77.8% (42)	0% (0)	20.4% (11)	1.9% (1)	54

表10 シンハラ語対訳では授受補助動詞形式になりにくい動詞の使用状況

	正用	誤用	不使用	代用	合計
3級	11.5% (14)	0.8% (1)	56.6% (69)	31.1% (38)	122
2級	31.7% (26)	2.4% (2)	37.8% (31)	28.0% (23)	82
1級	52.9% (18)	0% (0)	32.4% (11)	14.7% (5)	34

動詞形式になりやすい動詞のほうが、授受補助動詞形式になりにくい動詞より、正用の割合が高く、不使用と代用の割合が低い。誤用については、3級と2級の双方に認められるが、いずれも授受補助動詞形式になりにくい動詞の方が、誤用の割合が高くなっている。

## 6. ま と め

まず、シンハラ語母語話者による日本語授受補助動詞形式の全体的な使用状況についてまとめる。授受表現が導入されたばかりの3級レベルでは、使用を避けている傾向が強く見られる。2級レベルに入ると積極的に使用されるようになるが、同時に誤用も増えていく。1級レベルになると、さらに積極的に使用され、誤用も見られなくなる。

日本語授受補助動詞の各形式の使用状況を見ても、全体的な使用状況と同じ傾向を示す。テアゲルは1級レベルでほぼ習得が完成するが、テクレルについては、誤用はなくても、不使用と代用の割合がさほど少なくならず、1級においても習得がまだ完成には至っていないと考えられる。テモラウについては、テアゲル・テクレルと比べると使用頻度がかなり低い。ただ、シンハラ語母語話者にとっては習得しやすい表現なのか、不使用よりも正用の割合が高いか同じであることが、いずれのレベルでも見られるのが特徴的である。

シンハラ語対訳で授受補助動詞形式が取れるかどうかによる、日本語授受補助動詞の使用状況については、シンハラ語対訳で授受補助動詞形式が取れる動詞は、日本語授受補助動詞形式を使いやすく、逆の場合は使いにくいことが実際の数値からも分かった。このことは、単にテアゲル・テクレル・テモラウの使い分けがシンハラ語母語話者の学習者にとって問題になるのではなく、動詞により、日本語の授受補助動詞形式が作りやすいものと作りにくいものがあることも学習上の問題点となることが明らかになったことを示している。いずれにしても、シンハラ語の授受補助動詞形式をよく研究した上で、母語としてのシンハラ語を考慮した、日本語授受補助動詞文の指導法を考えるべきである。

## 7. おわりに（指導上の留意点と工夫）

スリランカの教育現場で、日本語授受補助動詞文がどのように指導されてきたかについては、今後の調査により明らかにしなければならないが、ここでは、今回の調査結果を踏まえ、指導上の留意点と工夫について述べてみたい。まず、日本語授受補助動詞に対応するシンハラ語の *la denəwa* と *wa gannəwa* は、どのように扱ったらよいであろうか。日本語授受補助動詞文の導入段階では、対応するシンハラ語訳を提示することで学習者の理解が容易になるので、シンハラ語対訳でも授受補助動詞形式になりやすい動詞に的を絞って指導し、練習することは合理的である。また、こうすることで、使用することを避けがちな日本語授受補助動詞形式の使用を促すことができる。

しかし、一方で、対訳が *la denəwa* や *wa gannəwa* にならない場合の日本語授受補助動詞文については、上級レベルでも不使用の割合が高いことを考えると、*la denəwa* と *wa gannəwa* の対訳にばかり頼るのは、むしろ危険である。やはり、先に2)～5), 8), 10)～13) で見た、シンハラ語では言えないが、日本語では言えるような授受補助動詞文については、これらに焦点を当てた指導と練習を行う機会を作るべきである。これにより、シンハラ語とは異なる日本語授受補助動詞文の特徴を理解させ、文脈や場面とも結びつけながら、より自然な日本語が使えるように指導していくことが可能になる。特に日本人母語話者と接する機会の少ないスリランカ国内の中・上級学習者にとっては、このような方法が効果的だと思われる。

追記：本発表は平成23年度科学研究費補助金基盤研究（C）「日本語とシンハラ語の授受表現—シンハラ人向け日本語教育文法の構築に向けて—」（課題番号21520557）の助成を受けた。

謝辞：調査に協力してくださったケラニア大学とサバラガムワ大学の先生・学生の皆様にお礼申し上げます。

## 参 考 文 献

- Chandralal, Dileep (2010) *Sinhala*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Masuoka, Takashi (1981) "Semantics of the benefactive constructions in Japanese" *Descriptive and Applied Linguistics* 14, ICU
- Priyadarshani, R. M. Sandhya (2008) 「JFL 日本語学習者の授受表現の習得—シンハラ語を母語とするスリランカ人学習者を対象として—」 広島大学大学院国際協力研究科修士論文
- Priyadarshani, R. M. Sandhya, 浮田三郎 (2008) 「日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究—「アゲル」「クレル」「モラウ」を中心に—」『ニダバ』37号, 西日本言語学会, pp163–172
- Priyadarshani, R. M. Sandhya (2010a) 「日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究—学習者の誤用に着目して—」『ニダバ』39号, 西日本言語学会, pp136–145
- Priyadarshani, R. M. Sandhya (2010b) 「日本語とシンハラ語の授受表現の比較対照（Ⅰ）文産出テストにおけるシンハラ人学習者の誤用文に着目して」, 比較文化研究 No. 91, pp161–172
- Priyadarshani, R. M. Sandhya (2010c) 「日本語とシンハラ語の授受表現の比較対照（Ⅱ）文産出テストにおけるシンハラ人学習者の誤用文に着目して」, 比較文化研究 No. 93, pp151–158
- Priyadarshani, R. M. Sandhya (2010d) 「JFL シンハラ語話者の学習者の授受表現の習得—文法テストにおける学習者の誤用文に注目して—」, 比較文化研究 No. 94, pp151–158
- 宮岸哲也 (2009) 「日本語とシンハラ語の取受動詞の対応について」, 国語国文論集39号, 安田女子大学,

pp13-25

宮岸哲也 (2010) 「日本語とシンハラ語の授与動詞」国語国文論集40号, 安田女子大学, pp13-24

宮岸哲也 (2011a) 「シンハラ語補助動詞 wa gannawa の前項動詞—日本語補助動詞テモラウとの比較を通して—」安田女子大学紀要第39号, pp45-57

宮岸哲也 (2011b) 「日本語とシンハラ語の授与補助動詞文—前項動詞と文の意味から見えてくるもの—」2011年度日本語教育学会春季大会予稿集, pp238-243

[2011. 9. 29 受理]